



▲会場からの質問に答える丁野朗氏（左）と温泉ビューティー研究家石井宏子氏。

観光は典型的な物語消費

日本遺産を地域活性化や観光振興にどう生かすかについて考えるシンポジウムを2月8日、和鋼博物館で開催しました。「出雲國たたら風土記」が文化庁の日本遺産に認定されてから間もなく2年。その文化遺産を保存のみならず活用することが求められています。

基調講演では、同制度の選考委員である東洋大学客員教授丁野朗氏が「共感や感動を与える物語（ストーリー）が求められている」と指摘。「過去の物語の紹介に留まらずに、未来に向けたビジョンを自治体の枠を超えた圏域や、民間と行政とが共有することが大事」と訴えました。



みんながスマイルになった 総勢71人の大演奏

昨年9月に開館した総合文化ホールアルテピアのオープニングイベントの一環で1月28日、「スマイルコンサート」が開催されました。出演したのは情報科学高校と安来高校の吹奏楽部、そして年間100回以上の演奏活動を行っている陸上自衛隊中部方面



まちの話題や出来事をご紹介します



写真は、第一次月山富田城跡写真コンテスト（安来市観光協会広瀬支部主催）で特選を受賞した石橋英治さん（広島市）の作品「雲上の山城」。

今月の一枚



◀コンサートの様子。アンコールでは唄とダンスも行いました。

音楽隊です。それぞれの演奏の後、第3部では高校生と自衛官との総勢71人の合同演奏を披露。ステージから届く迫力ある演奏が会場を圧倒していました。

安来高校吹奏楽部部長の土江光夏さん（2年）は「満員のお客さんで緊張しましたが、しっかり楽しんで演奏することができました。昨日はパート別に指導してもらうことができ、演奏の勉強になりました」と話してくれました。



◀ 赤や白のかわいらしい花が来場者を楽しませました。

新品種も並んだ宇賀荘寒椿展

宇賀荘地区の愛好家らで組織する宇賀荘花木の会が丹精込めて育てたツバキを集めた寒椿展が1月20日から2日間、同交流センターで開催され、約600人の来場者でにぎわいました。

会場では赤や白など色鮮やかな花やつぼみを付けた63品種約120鉢のツバキが並び、昨年新品種認定を受けた「独松山」なども展示されました。

宇賀荘地区は「椿の里づくり」を掲げて地域づくりに尽力しており、近年は地区内のツバキが三年連続で新品種に認定されるなど名実ともに実績を上げています。

全国に愛される安来節に

安来節保存会の唄い初め会が1月10日、安来節演芸館で開催されました。初めに保存会会長の近藤市長が「昨年は地域伝統芸能大賞の地域振興賞を受賞したことや連続テレビ小説に安来節が登場した」ことに触れ、「新たな気持ちで全国の皆様に愛される民謡として一層精進を」とあいさつ。その後は上位昇格者披露や支部競演が行われました。



▲上位昇格者披露の様子。

唄の部門で大師範に昇格した池田佐都美さん（本部道場）は「“継続は力なり”の気持ちで続けてきたことが実を結びました。支えてくれた家族や先生、仲間感謝したいです。今年は、新たに安来節をやりたい人を増やし、楽しくやっていきたいです」と抱負を話していました。

まちを守るアーチ・消防出初式

消防団の新年初めての活動となる消防出初式を1月14日、総合文化ホールと安来港で行いました。

当日は消防車両47台、団員約500人が参加。地域を守る消防団員として決意を新たにしました。

安来港では、各分団に配備された資機材が常に使える状態にあるかを確認する機械器具点検を実施。その後、団員は中海に向って一斉に放水を行いました。中海に降り注ぐ直線状に連なる水の壁は、まちを守るバリアのように見えました。



▶ 広瀬町の藍染め製座布団力バターの作品も展示されました。



子どもたちの豊かな世界を展示

市特別支援学級合同作品展「ふれあい広場」が2月2日から5日間、プラーナ（安来町）で開催されました。今年は20回目の節目の展示。会場には市内の21小・中学校から出品された延べ675作品が展示されました。

作品は、習字や絵画、工作作品をはじめ、地域の人を講師に招いた授業で製作した伝統工芸を使った作品、学校の周辺にあるものを調べた研究作品などどれも力作ぞろい。訪れた人は熱心に作品や紹介文を見入っていました。また、会場には来場した人との交流の場になってほしいとの思いから、作者宛のメッセージカード入れが設けられていました。